

CAA 日本システム監査人協会報

第8回総会開催される

平成7年2月17日東京都江東区豊洲のNTTデータ通信株式会社に於いて、日本システム監査人協会の第8回通常総会が開催された。

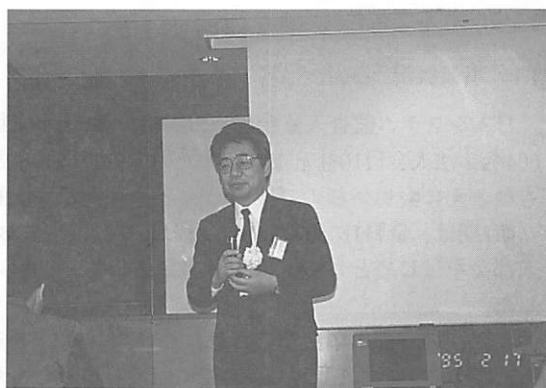
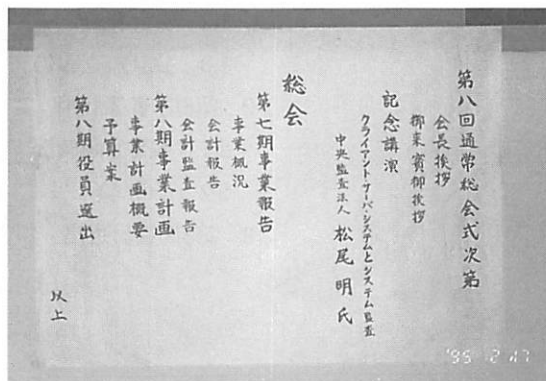
総会に先立ち、中央監査法人の松尾明先生に「クライアントサーバーシステムとシステム監査」と題して記念講演をして頂いた。氏はシステム監査を日本に導入するきっかけを作られた方で、日本だけでなくアメリカ等でもシステム監査部門で活躍されている。クライアントサーバーシステムの基本と最新動向、必要な技術等についてノートパソコン及びオーバーヘッドプロジェクターを持ち込まれて、デモを含めて解説された。

総会は、川野会長の開会の辞に始まり、議長に橋和理事を選出し、ISACA東京支部会長上園先生の祝辞を頂いた。

会長から昨年度の事業報告及び、蓮見理事からの会計報告、藤田幹事による会計監査報告の後、質疑応答が行われた。今回は特別に近畿地区安本理事による阪神地区状況の説明があった。安全対策を含めた危機管理のあり方、コンティンジェンシープランの見直しなど阪神大震災で得た貴重な体験を今後のシステム監査のあり方に結び付ける方向で活動していくという報告がなされた。

第8期(平成7年度)事業計画、予算計画役員候補は川野会長より説明され、賛成多数で承認された。

この後場所を移して懇親会が行われた。



日本システム監査人協会
第8回総会資料

目 次

- 1 第7期 事業報告
 - 1.1 事業概況
 - 1.2 会計報告
 - 1.3 会計監査報告
- 2 第8期 事業計画
 - 2.1 事業計画概況
 - 2.2 予算案
- 3 第8期役員選出

1 第7期 事業報告

1.1 事業概況

日本システム監査人協会は、お陰様で第8期事業年度を迎えることとなりました。会員数も個人会員604名、法人会員10社となり、また研究会をはじめとする協会活動は一層充実してまいりました。これもひとえに会員皆様のご協力の賜と感謝しております。

第7期は、資料1に記載しましたとおり、東京におきましては例年通り、定例研究会を6回開催し、法人部会をはじめとして、事例研究会、セキュリティ研究会および技法研究会も活発に活動して参りました。

また、地方都市の会員のためにパソコン通信で情報交換等行ってきました。

近畿会におきましても、資料2に記載しましたとおり、原則として2カ月に1回の研究会が開催されました。また、3月16日にシステム監査実践研究会を発足させ、熱意あふれる活動が展開されております。

また北陸地区におきましても会員が少ないにもかかわらずソフトウェアQCやセキュリティ等に関する研究会を3回開催しております。

中部支部は、資料3に記載しましたとおり、6回の定例研究会を開催し、近畿同様活発に活動を続けております。

九州支部は、資料3に記載しましたとおり、原則として毎月第3土曜日10名程度の会員が参加して活発な活動を続けております。

昨年より中国支部も発足することとなり当会もますます発展一途を辿っております。

1.2 会計報告

日本システム監査人協会

収 支 計 算 書

自 平成6年 1月 1日

至 平成6年12月31日

第 8 期

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	割 合
収入の部			(%)
会費収入	6,400,000	6,121,000	95.6
研究会収入	760,000	1,387,743	182.6
その他収入	10,000	37,372	373.7
支部収入	585,000	520,419	89.0
前期繰越	4,448,673	4,448,673	100.0
合 計	12,203,673	12,515,207	102.6
支出の部			
月例研究会費	760,000	1,479,716	194.7
分科会費	650,000	207,763	32.0
会 報 費	1,000,000	1,455,401	145.5
総 会 費	500,000	314,724	62.9
会 議 費	150,000	5,448	3.6
広告宣伝費	210,000	203,528	96.9
旅費交通費	400,000	210,530	52.6
通 信 費	400,000	406,153	101.5
事務用品費	300,000	449,387	149.8
事 業 費	1,200,000	246,300	20.5
広 報 費	200,000	124,104	62.1
雑 費	250,000	512,132	204.9
事務所運営費	1,100,000	1,000,000	90.9
支部費用	1,480,000	1,155,826	78.1
合 計	8,600,000	7,771,012	90.4
次 期 繰 越	3,603,673	4,744,195	131.6

日本システム監査人協会

貸借対照表

第7期

平成6年12月31日現在

(単位：円)

資 産		負債及び繰越金	
現 預 金	3,982,372	前 受 金	96,000
未 収 金	686,000	未 払 金	78,177
前 払 費 用	250,000	次 期 繰 越	4,744,195
合 計	4,918,372	合 計	4,918,372

(注1) 現預金の内訳 (単位：円)

・本部現金		21,208
会計担当	4,396	
広報担当	16,812	
・本部預金		3,495,018
第一勧業銀行・北沢支店	1,066,248	
千葉銀行・船橋支店	0	
郵便振替口座	2,428,770	
・近畿支部現預金		210,466
・中部支部現預金		73,917
・九州支部現預金		181,763
合 計		<u>3,982,372</u>

(注2) 次の資産については、取得時に費用処理している。

資産名	取得年月	取得価額 (円)
・コピー機	平成6年 5月	71,894
・ビデオ映写機	平成6年12月	250,680

(コピー機は会計担当理事、ビデオ映写機は月例研究会担当理事が保管)

1.3 会計監査報告

平成7年2月1日

日本システム監査人協会

会長 川野佳範 殿

日本システム監査人協会

監事 藤田哲郎

監事 藤森健次

平成6年度 監査報告書

私達は、日本システム監査人協会の平成6年1月1日から平成6年12月31日までの第7期会計年度の計算書類、すなわち収支計算書および貸借対照表について監査を行った。

監査の結果、上記計算書類は日本システム監査人協会の平成6年12月31日現在の財政状態および同日を以って終了する会計年度の収支状況を適切に表示しているものと認める。

以 上

2 第8期 事業計画

2.1 事業計画概要

(1) システム監査の更なる普及および実践

- ① 出版活動
- ② 研究会、分科会、セミナー等の充実
- ③ システム監査の実践

(2) 組織等

- ① 会員数の拡大
広報および研究会の充実を計り、650名をめざす。

- ② 法人会員の参加
法人会員の積極的な加入促進

- ③ 支部会の充実
昨年3月にシステム実践研究会を新設し活動を始め、本年は活発な活動が期待されます。12月には中国支部を設立し本格的な活動を開始すべく準備しております。
北陸支部にあっては今年24日、25日両日近畿会と合同で研究会が計画されています。
斯様に地方都市の会員も主要都市在住の会員と同様、等しくシステム監査の研究ができるような施策を行いたいと思います。具体的には、東京で行った研究会のビデオを支部に送り活用していただく等です。

(3) 研究会等の活動計画

- ① 東京定例研究会
例年の通り隔月に行う。
- ② 法人部会
 - a. システム監査業務のマーケティング
 - b. システム監査関連の基準見直し動向に関する調査研究
 - c. 法人部会会員の勧誘
 - d. 関係省庁、団体、業界の最新情報の交換
- ③ システム監査事例研究会
 - a. 活動計画模擬システム監査の実施
P社、Q社その他1社
 - b. 監査事例案件のファイルの保存・整理
- ④ セキュリティ研究会
C.Pの研究を継続し、リスク評価の判断基準作成、JRAMの事例研究、CRAMMの調査、企業訪問による事例研究
- ⑤ 技法研究会
「標準LAN教科書」(マルチメディア通信研究会編) 輪読・・・LANの実際と可能性についての学習
- ⑥ 近畿会
昨年と同様、更に活発な活動を展開する。特にシステム監査の実践を強化する。
- ⑦ 中部支部
システム監査手法の研究
- ⑧ 九州支部
昨年同様、毎月研究活動を行う。

(4) その他

- ① 出版活動
- ② 大学や外部組織との提携
- ③ 会員相互の情報交換の促進

2.2 予算案

日本システム監査人協会

予 算 案

自 平成7年 1月 1日

至 平成7年12月31日

第8期

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
会費収入	6,300,000	
研究会収入	1,100,000	8回 アナリスト部会含む
その他収入	30,000	利息 資料代
支部収入	600,000	支部独自会費等
前期繰越	4,744,195	
合 計	12,774,195	
支出の部		
月例研究会費	1,100,000	8回 アナリスト部会含む
分科会費	650,000	法人・パソコン部会含む
会 報 費	1,600,000	5回
総 会 費	500,000	
会 議 費	150,000	
広告宣伝費	210,000	
旅費交通費	500,000	
通 信 費	450,000	
事務用品費	300,000	
事 業 費	800,000	会員証、本の負担金、出版
広 報 費	200,000	
雑 費	500,000	規程・書類整理含む
事務所運営費	1,100,000	定額委託
支部助成金	765,000	
支部費用	487,000	支部総費用－支部助成金
合 計	9,312,000	
次期繰越	3,462,195	

資料1

<I 東京定例研究会>

開催月	テ ー マ	講 師
1月	システムコンサルティングとシステム監査(第31回) (株)産能コンサルティング	牧野 恭人 氏
5月	情報システムの内部統制質問書について(第32回) 日本公認会計士協会	南部 和幸 氏
7月	システム開発取引の共通フレーム(第33回) NTTデータ通信(株)	外川 政夫 氏
9月	企業内パソコンソフト使用をめぐる違法コピー問題(第34回) (社)日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会 (社)コンピュータソフトウェア著作権協会	佐藤 文信 氏 久保田 裕 氏
10月	コンピュータセキュリティ基本要件について(第35回) 日本電気(株)	菅 知之 氏
11月	情報サービスの取引高度化について(第36回) ジェームスマーチン・アンド・カンパニー・ジャパン	森 茂郎 氏

<II 法人部会>

1. メンバーと開催日
メンバー10社、毎月定例的に開催
2. 活動内容
 - (1) システム開発取引の共通フレームとシステム監査との係わりの研究
 - (2) 新制度「特定システムオペレーション企業等認定制度」とシステム監査との係わりの研究
 - (3) 「情報処理サービス業電子計算機システム安全対策実施事業所認定制度」とシステム監査との係わりの研究

<III システム監査事例研究会>

1. 研究会メンバー
48名
2. 開催日
毎月第2火曜日開催
3. 活動内容
 - (1) 模擬システム監査 対象会社0社(15社目)
 - (2) 模擬監査手続き・様式集及び模擬監査チェックリストの作成
 - (3) 監査事例案件のファイルの保存・整理

<IV セキュリティ研究会>

1. 主要研究テーマ

(1) コンティンジェンシー・プラン (以下C. Pと称す) の事例研究

- ① C. Pのコンサルティングを目指して
- ② リスク分析を行うためのデータ収集
- ③ CRAMMの調査
- ④ リスク分析手法の対比表の作成

JRAM、CRAMM、MARION、システム監査のリスク評価案 (システム監査普及協会)、米国のリスクマネージメントガイドライン

2. 研究会開催

(1) 定例会

12回

(2) 合宿

1回 (1泊2日)

(3) 企業訪問

1回 S社

<V 技法研究会>

1. 開催日

原則として毎月第3木曜日開催

2. 研究内容

ISO9000-3「ソフトウェアの品質保証」輪読

資料2

近畿会

<I 定例研究会>

開催月	テ ー マ	講 師
2月	「BPRと情報システム」 さくら総合研究所	椎野 祐二 氏
4月	「当社におけるシステム監査の実施例」 日本ペイント (株)	宮嶋 磐夫 氏
6月	「情報系システムの有効性評価」 当社における営業支援システムの構築と評価 (株) アスクプランニングセンター	日高 祐子 氏
8月	「システム監査の評価基準」 九州帝京短期大学教授	守田 昭彦 氏
11月	システム監査実践研究会の活動成果について K社における模擬監査の実践経過とモデルケースについて	

<II システム監査実践研究会>

1. 「企業モデル」ケースの策定

2. K社のシステム監査の実施

資料3

<中部支部>

開催月	テ ー マ	講 師
1月	N社システム監査実査の中間報告	西脇 滋 氏、 原 善一郎 氏
3月	N社システム監査報告	西脇 滋 氏、 原 善一郎 氏
5月	監査遵守事項の達成度の定量評価	原 善一郎 氏
7月	SLPC-JCF94に関する討論会	澤 貞夫 氏
9月	SLPC-JCF94とダウンサイジングシステム	鈴木 喜博 氏
11月	ダウンサイジングの定義	自由討議

資料4

<九州支部>

開催月	テ ー マ	講 師
1月	「コンサルティングの手引き」の項目・構成検討 ISO9000認定制度の解説	鞍馬 忠志 氏
2月	「システムコンサルティングとシステム監査」出席報告	秀島 弘行 氏
3月	ソフトウェアの権利保護について意見交換	
5月	システム構築の際の情報化投資 ソフトウェアの権利保護	鞍馬 忠行 氏 鞍馬 忠行 氏
6月	通信の機密保護 「情報システムの内部統制質問書」出席報告	行武 郁博 氏 秀島 弘行 氏
7月	プログラムの私的複製権	行武 郁博 氏
9月	特定システムオペレーション企業等認定制度 システム監査の評価基準	鞍馬 忠行 氏 守田 昭彦 氏
10月	汎用コンピュータのコンピュータウイルス対策	行武 郁博 氏
11月	製造物責任 (PL) 法	鞍馬 忠行 氏
12月	パソコンのコンピュータウイルス対策	行武 郁博 氏

3 第8期 役員選出

第8期(平成7年)役員及び役員候補者名簿

候補	役職	氏名	勤務先等	No.	備考
○	会長	川野 佳範	監査法人 トーマツ	39	
	副会長	相川 正克	NTTデータ通信(株)	6002	法人
○	副会長	牧野 恭人	(株)産能コンサルティング	362	
○	事務局長	小宮山 登志雄	小宮山公認会計士事務所	55	
○	理事	荒川 幸式	日本ユニシス(株)	293	
	〃	金子 長男	(財)公営事業電子計算センター	25	
○	〃	橘和 尚道	システム監査コンサルタント	461	
○	〃	木村 裕一	(株)日立情報システムズ	148	
	〃	木村 陽一	日本レジホンシステムズ	192	
	〃	鈴木 実	商船三井システムズ(株)	377	
○	〃	徳武 康雄	富士通(株)	161	
○	〃	中尾 宏	朝日アーサーアンダーセン	76	
	〃	蓮見 節夫	科研製薬(株)	9	
○	〃	馬場 要輔	(株)三菱銀行	203	
○	〃	三谷 慶一郎	(株)NTTデータ経営研究所	608	
	〃	山内 美佐子	伊藤忠テクノサイエンス(株)	495	
○	〃	和貝 享介	監査法人 トーマツ	18	
○	〃	安本 哲之助	日本生命保険相互会社	299	近畿
○	〃	石島 隆	センチュリー監査法人	47	近畿
	〃	山田 俊明	(株)アスコット	467	近畿
○	〃	原 善一郎	太平洋工業(株)	124	中部
○	〃	行武 郁博		307	九州
○	〃	安原 節男	(有)オフィス・あん	387	中国
○	〃	一村 義夫	(株)日立情報システムズ	6005	法人
○	〃	小野 修一	日本ユニシス(株)	6006	法人
○	監事	野村 章	あさひ銀情報システム(株)	135	
○	〃	藤森 健次	(株)エス・イー・シー	118	
	顧問	鈴木 信夫	(株)ケンウッド	8	
	〃	梅津 尚夫	(有)アサップ経営システムコンサルティング	74	

理事就任のご挨拶



No.308

この度、法人部会代表として本協会の理事を務めさせていただくことになりました、日本ユニシス(株)の小野修一です。

昨年の4月から、企業代表として法人部会のメンバーに加えていただき、1年弱、いろいろと勉強をさせていただきました。

システム監査の重要性は多くの場面で話題になるが、企業のビジネスとしてシステム監査が成り立つ状況に現在はない、ということが、法人部会メンバーの共通認識かつ最大のテーマであります。

理事就任にあたり、法人部会加入メンバーの拡大を図り、皆様と協力しながら、システム監査のビジネス・チャンス拡大に向けて少しでもお役に立つ決意ですので、どうぞよろしくお願い致します。

新任理事のご挨拶



No.76 中尾 宏

第8回総会にて協会理事を承りました中尾でございます。協会には設立準備から参画させて頂いており、発足から約4年間初代理事として研究会を中心にお手伝いをさせて頂きました。

この度、縁あって再登板することになりました。宜しくお願い申し上げます。

当協会は現在顧問をされている鈴木信夫さんの働きかけで昭和62年9月29日にNHKの南青山にある施設をお借りして第1回試験の合格者約20名を集めて行われた協会設立準備会議からスタートしております。

設立当初は全て一からの作業で、協会設立の目的の確認や運営方法に関する意見調整に始ま

り、協会の名称をどうするか、倫理規定の文言はこれで良いのか、等々、夜遅くまで議論を繰り返しました。会員規模を500名以上にし、質的にも社会的に認められる団体にしたいという当時のメンバーの思い入れから協会名称の頭に“日本”を付けたと記憶しています。

第1回の総会(設立総会)を準会員を含めて何とか100人でスタートした協会も今では、多くの方々のご尽力で正会員だけでも500名を突破し、事務局の設置、法人会員制度の導入など大きく発展し、設立準備当時に比べるとまさに隔世の感があります。

この間、私自身も転職を経験しシステム監査に関しては受ける立場から行う立場に変わりましたが、協会のおかげで川野会長を初め、多くの素晴らしい方々とのご縁を頂きました。

今後は、当協会も大きくなったが為の課題もあり、設立時とは違った意味で、難しい時期に入ってくると思いますが、微力ながら協会のより一層の発展のため努力いたします所存です。

監査法人トーマツの和貝さんと共に総務を担当させて頂きます。皆さんにご協力頂く機会が多くなると思います。今後ともご指導ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

理事就任のご挨拶



No.124 原 善一郎

三代目の中部支部長をさせて頂くことになりました。澤初代支部長、西脇二代目支部長の後任ということで非力ではございますがよろしくお願致します。

例会に出る度にフリートークングの中でいろいろな専門家の方のお話を聞かせて頂き、その知識・経験豊かなご意見をお伺いすると、そのつど目からうろこが落ちる思いです。会社の中において井の中の蛙になっていたのに気がつきます。

このことだけでも、例会に顔を出すメリット

です。本当に優秀なメンバーが集まっている中部支部にいて良かったと思っています。

もちろん、協会全体がそうだと思います。その割には力不足の新米理事ではございますが、全力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。

私の略歴



No.135 野村 章

【学歴・職歴】昭和36年：京都大学法学部卒業。同年(株)協和銀行入社。現在：あさひ銀情報システム(株)監査役。筑波大学夜間大学院・経営政策科学研究科・経営システム科学専攻在籍中。【取得資格】システム監査技術者、中小企業診断士(情報部門)。【興味を持つ分野】ソフトウェア工学(ソフトウェア再利用、オブジェクト指向、エージェント、人工知能)、環境監査。【著書】「システム監査の基礎と実際」(共著)電機大出版局、「中小企業診断士への道」(共著)法学書院、「私はこうして中小企業診断士の資格を取得した」(共著)産能大出版局。【趣味】ゴルフ、読書。

理事就任のご挨拶



No.608 三谷 慶一郎

この度、理事に就任いたしました株式会社NTTデータ経営研究所の三谷と申します。

当社は、NTTデータ通信株式会社の100%出資で設立されたコンサルティング会社であり、情報戦略を中心とした各種経営戦略の立案、並びに戦略実施のための業務プロセス改善等のコンサルティングサービスを提供しております。

私も一般企業や行政機関等に対して、年間十

数件のプロジェクトに参加しているわけですが、クライアントの情報システムに対する要求が年々厳しくなっているのを強く感じます。

一つは、自社のシステムに対する投資対効果は十分あがっているのかといった有効性評価の観点、もう一つは、災害対策、犯罪対策といった側面から見て自社システム環境に不備はないかという安全性・信頼性評価の観点。これらについてクライアントは、より精緻な回答とより具体的な対策方法を求めつつあるように思います。

いうまでもなく、どのプロジェクトを実施していく上でも「システム監査」という概念は、必要不可欠なものであり、日々の業務の中で自らの監査技術の未熟さを痛感している次第です。

尚、この場をお借りいたしまして、阪神大震災における被災地の方々には心よりお見舞いを申し上げたいと思います。

今回の震災は多くの重大な教訓を我々に与えてくれたと感じています。この経験を冷静に受けとめ、情報システムの安全性を確保し、社会全体としての防災システムの在り方を提言していくことが、システム監査人が今後行っていかねばならない使命であると考えております。

若輩者ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

理事就任のご挨拶



No.387 安原節男

昨年秋、発足したばかりの中国支部の安原です。私がこの協会の会員になったのは、永年勤務していたNTTを退職した年(平成3年)で、私の人生において、おおいに記念となる年でした。

NTTでは、在籍期間の2/3以上の二十数年間を、コンピュータ相手に過ごしました。この間、NTTの社内業務のシステム化、ユーザシステムでは、バンキング・システムなどの開発・

運用を経験しています。

退職後はコンピュータとは「縁切り」したいと思いつながら、退職の前年に「システム監査」試験を受け、結果として今日につながるようになりました。また、入会后、会員名簿を拝見すると、NTTやNTTデータ通信(株)関係の方で、NTT在職中にお付き合いのあったお名前が沢山あり、心強いものを感じました。

さて、私の「システム監査」との関わりを紹介しますと、実施経験はゼロですが、2回受けた経験があります。1回は、NTTの某社内システムの開発プロジェクトの責任者の時で、監査によってバグを発見していただきました。

次は、関連会社へ社内システムの責任者として出向している時期に、出向先企業が監査法人の監査を受けた際で、この時はことに問題はありませんでした。しかし、「システム監査」試験を受けるキッカケとなりました。

中国支部発足にあたって、小宮山事務局長さんにお逢いした際、「支部長は理事になっていただきます」と言われ、「これは大変なことになったぞ」と驚き、かつ、少々怖気づいたものです。

しかし、考えてみれば、会員の皆様はそれぞれのお仕事でご多忙な方ばかり。NTT退職後「ボケ防止」にと開業した個人会社〔(有)オフィス・あん〕で、それほど忙しくない自分の出番かもしれません。

皆様のご支援をいただき、とにかく頑張ります。よろしく願います。

理事就任のご挨拶



No.307 行武 郁博

先日の総会で、来賓の上園忠弘氏の挨拶があった。その中で、「今回の阪神大震災でシステム監査人の発言がないのはどうしたことであろうか。これでいいのだろうか。」といった疑問が出された。これは我国のシステム監査の根

幹に関わってくる問題のように思われる。

阪神大震災に限らず、最近の新聞では、都市銀行のパソコンサービスを利用したコンピュータ犯罪、システムの欠陥による厚生年金相違や地方選挙の有権者相違などシステム監査に係わる事件が報ぜられている。にもかかわらず「システム監査」の活字は一向に見えない。

言い古された言葉であるがシステム監査はまだまだ一般的でなく、その理解も認知も社会の一部に留まっているとしか思えない。

その責任の一端はシステム監査人にもあるのではないかと。微力ではあるがシステム監査の普及に盡力したい。

理事就任のご挨拶



No.18 和貝享介

この度、理事に就任しました和貝です。

私は、監査法人のシステム監査部門におります。公認会計士が行う財務諸表監査のなかのコンピュータシステム関係のサポートと、いわゆる情報システム監査との2つが主な業務です。前者についても目的の違いはあれ、監査手続、技法にはシステム監査と共通するものが多く、コンピュータ利用汎用監査ツールなども同様に利用しています。

日本システム監査人協会には協会発足以来お世話になっていましたが、催される研修会に時々顔を出す程度で、なかなか協力ができず今日に至りました。縁合ってこの度会員の皆様の活動をお手伝いするという重責を賜り、恐縮しています。微力ながら協会のために力を注いでゆきたいと思ひます。よろしく願ひいたします。

第37回月例研究会 感想文

No.557 セコムネット(株) 仲 厚吉

日時 : 平成7年1月23日(月)

テーマ : ネットワーク構築の考慮点

講師 : 味の素システムテクノ(株)

情報処理事業部 副部長 海野 守 氏

さる1月23日に開催された月例研究会において、首題のネットワーク構築の考慮点についての講演を拝聴した。講演は実演をもとに説明されていて非常にわかりやすく、講演後活発な質疑応答がなされた。以下に当日のレジメを参照しながら講演の内容を紹介する。

序、ネットワーク構築の考慮点

ネットワーク構築の考慮点としてつぎの6項目が挙げられる。

- ① 電気通信サービス
- ② オンライン構成要素
- ③ ネットワーク構築の基本フロー
- ④ 障害対策
- ⑤ ネットワーク保守運用
- ⑥ セキュリティ対策

1. 電気通信サービス

(1) 通信事業者

NTTなど第1種と、特別第2種および一般第2種電気通信事業者

(2) サービスの種類と特徴

音声専用線、アナログ専用線、符号品目専用線、高速デジタル回線、回線交換、蓄積交換回線、ISDN、およびバースト的なデータ転送の発生するLAN間のデータ転送に適したフレームリレー

2. オンライン構成要素

(1) 汎用機系

HDLC (SDLC) JCA/全銀手順

(2) トークンリングLAN系

(3) Ethernet LAN系

TCP/IP

3. ネットワーク構築の基本フロー

(1) 基本的条件

ネットワーク構築目的の明確化・目標の設定

(2) 現状分析・問題点の調査

オンラインサービスレベルの設定、利用時間帯

(3) ネットワーク構成の検討

基本計画書に記載する項目

(4) 導入決定

(5) 詳細設計書作成

(6) ネットワーク構築

(7) ネットワークの運用

4. 障害対策

(1) 障害監視装置の選択

ネットワーク機器の障害監視

LAN/WANのトラフィック監視

リモートのWSやPCの障害監視

(2) バックアップ回線の構築

オンライン停止における影響度の調査

緊急業務のプライオリティ

回線/機器バックアップの範囲

費用見積り

5. ネットワーク保守運用体制

(1) 社内保守体制

ネットワークの集中管理体制

ネットワーク工事の施工・工事の管理一元化

各事業所ごとの初期トラブル対応の要員の確保

(2) 保守業者の保守体制

遠隔地の保守体制

保守総合窓口の一元化

(3) 運用管理ドキュメント体系

構成管理、アドレス管理、端末論理名管理
障害切り分け手順の標準化

6. セキュリティ対策

Q&A

- (1) 阪神大震災時、大阪支店一福岡/中国支店間の回線の被害はなかった。

- (2) 障害対策はツールによるセンター集中管理、事業所に管理担当者を配置。
- (3) 信頼性のためのバックアップは機器コスト低価格化で容易になった。
- (4) フレームリレーは、自営よりもフレームリレーサービスの方が安価になった。
- (5) ネットワーク管理者教育は、OJTと社外セミナーを利用。

<所感>

ネットワーク構築の考慮点、特に、障害対策、ネットワーク保守運用体制の実際事例に研究会は盛り上がった。なお、今回から、研究会はVTRで撮影記録されている。

いま、中部支部がおもしろい

No.124 原 善一郎

昔、ある日、あの、独特の雰囲気のある澤さんからお電話をいただきました。「今度、中部支部を作るから名古屋へ出ておいで」。のこのこと出かけていった先でまず酒を飲みました。

あれから満7年もたちました。「システム監査の有用性を社会一般に普及せしめると共に、…監査技能の維持・向上をはかり、よって、健全な情報化社会の発展に寄与する」ことがどれくらい出来たでしょうか。

中部支部では澤初代支部長、西脇二代目支部長の献身的なご尽力のお陰で本当にためになる活動ができてきたと思います。年6回に及ぶ例会と懇親会。事例研との共同の模擬監査。これだけでも会合に参加しているメンバーには本当に「入ってて良かった」といえるものです。

中部というエリアは本当に狭いところ。少し動くとすぐの協会のメンバーに出会ってしまいます。その時はお互いに世話になっています。この意味でも「入ってて良かった」と思うことがたびたびあります。

今年は、初回の例会で鈴木事例研座長をお招きして、勉強会をさせていただきました。その勢いで1年間原点に戻って「監査技能の維持・向上」

をはかります。

活動には遊び感覚のアイデアから中部エリアの情報処理教育のお手伝いのアイデアまでいろいろとメンバーで話し合っています。こちらはサブの目標となっていますので、具体化する度にお知らせします。

さらに、月例研究会に参加しにくいメンバーの別の参加方法を探っています。まずは、パソコン通信部会(ニフティ:MHE02226蓮見さんにメールで参加申請)の積極的利用。例会議事録のFAX配信、東京例会のVTRコピーサービスなどのメディアの利用研究を行います。

こうなると、一部のお世話役が頑張るだけではどうにもなりません。そこで、西脇前支部長にも支部役員に留任頂き、さらに、斉藤さん、山崎さん、渡辺さんに原という5人体制にし、さらに組織的な支部活動になります。

「いま、中部支部がおもしろい」。これは協会の常識です。

PS.

中部支部のみなさん、ますます頑張りましょう。三代目支部長をさせていただきますがよろしくお祈りします。

Fax : 0584-92-1804

e-mail : NIFTY: PXP12756

阪神大震災・被害調査特別プロジェクト
参加者募集

阪神大震災から2カ月余り経過しましたが、今なお避難生活を余儀なくされている方々やビル倒壊により就業できない企業の方々が多くいます。一日も早く復旧されることを心よりお祈り申し上げます。

不幸にも被災された企業の情報システムに対する被害状況や復旧状況はあまり報告されていません。また、直接被害のなかった企業や首都圏の企業でもこれを教訓にセキュリティ対策を見直す論議が高まっています。日本システム監査人協会として被害状況を調査しシステム監査の視点で評価を加え、今後の危機管理に適用してゆくならば大きな成果となると考えます。

そこで、当協会の3月9日理事会において、

『阪神大震災・情報システム被害調査特別プロジェクト』が発足いたしました。推進母体はセキュリティ研究会が行うこととなり、下記要領を進めたいと考えております。

プロジェクト参加会員を募集いたします。

記

1. 担当理事： 金子 (No.25)、木村 (No.148)
2. 活動期間： およそ4～5カ月で終了させたいと考えております。
3. 申込先：

(財)公営事業電子計算センター
 情報処理本部 運用部 金子長男
 Tell 03-3343-4560
 Fax 03-3343-4606
 Nifty-ID : PXM02272
4. 申込締切日： 4月19日
5. 会合日時： 4月20日、(予備：4月27日)
 5月18日、6月15日、7月20日
 時間帯はいずれも 18:00～20:00
 上記以外に臨時会合もあります。
6. 会合場所： 虎ノ門琴平会館
 監査法人トーマツ 2階会議室
 多数のご参加をお待ちしております。
 コンピュータ・メーカーの方は是非ご参加をお願いします。

システム監査人日誌

第9回

No.39 川野 佳範

平成4年1月31日 金曜日

午前6時目を覚ます。疲れが抜けきらず、もう少し暖かい布団にくるまっていたい身体と気持ちに鞭打って跳ね起きる。部屋の中の寒気が身に沁みる。Tシャツの上にとっくり衿のアンダーシャツを着て、下はサポーターにタイツを身につけ、その上に上下のウィンドブレーカーを着る。

隣部屋の妻はまだ寝ているようだ。音を立てないように気を配りながら階段を下る。1階の洗面所で歯を磨き、冷たい水で顔を洗う。真か

ら目を覚まし玄関の鍵を開け外へ出て郵便受けの新聞を取り出し、自分の書斎に戻る。新聞は、朝日、日経、読売、この3紙を購読している。まずは、朝日の各ページのヘッドラインと天声人語を読み、2面の針すなおのマンガに目を通す。小島功、山田伸もいいが私は針すなおが好き。日経は折り畳んで、着替えの下着、靴下、Yシャツ、ネクタイ、そしてSACレポートのコピーと翻訳して保存したフロッピィとともにマラニックバッグの中に詰める。そのマラニックバッグを背負い、頭に毛糸の帽子をかぶり、両手に軍手をはめる。そうこうしているうち妻が犬とともに階下に降りてきた。

「走っていくの……」と言。「うん……」と短い返事。

昭和52年の初夏の頃だったと思う。仕事の関係と勉強もあって走る練習時間が思うように取れず通勤ランニングを始めた。ジョギングブームの今日では通勤ランニングも一般化して、道すがら仲間とすれ違うことも少なくないが、当時はすれ違う人から奇異な目で見られたものである。「気違いじゃない」とも同僚に言われた。その同僚(現在、早稲田大学教授 松田修一)も、今はジョギング仲間の一人であるが。

6時20分家を飛び出す。ポケットラジオのイヤホンに耳に。ラジオは続基礎英語を放送している。それを耳にゆっくりと走り出す。100m走って、京葉道路に出る。トラックやクレーン車などが先を競うように騒音を残し走り去る。小松川橋に出ると、背後に茜色に染まった空と地平線の境から太陽が顔を覗かせていた。前方遠く西方を望むとビルとビルの合間にくっきりと旭に映えた真白い富士の雄姿が目をもてくれる。眼下の川面には小型タンカーが波を切り静かに、だが力強く川を遡っている。上空には白いカモメが数羽ゆっくりと弧を描き舞い、対角線上の川面には数十羽の冬鴨が一家団らん幸せそうに飛び交っている。1000mの小松川橋を渡り、小松川3丁目に入り左折して、首都高速7号線の下を西へと走る。今この地区は再開発のため古い家が少しずつ取り壊されている。気の長い事業である。

葛飾北斎の絵画「逆井(さかさい)の渡し」で知られている逆井、今は“渡し”ではなく橋とな

り、その逆井橋を江戸川区から江東区亀戸に入る。家を出て約10分、耳には統基礎英語の講義が鼓膜を刺激しているが、脳にまでは刺激がこないのか記憶に残っていない。しばらく講義に集中しようと試みる。今となって講義内容を思い出せない。走りながら英語の勉強なんて所詮無駄な抵抗なのか。相変わらず高速7号線に沿って亀戸9丁目、7丁目、6丁目と走り抜ける。そして亀戸緑道公園（以前は都電の軌道であった）に出た所で左折し、大島町に入り大島緑道公園の中を走り、新大橋通りに出る。この通りの下は都営新宿線が走っている。西大島から住吉、菊川、森下と下町を走り抜ける。住吉駅のところで家を出て丁度30分経過。ラジオは統基礎英語から英会話は変わっていた。森下町を過ぎて昇りにはいる。江東区は海拔マイナス2~3mであるため新大橋を渡るためにきつい昇りとなる。つい数年前までの新大橋は、隅田川に架かっている橋で最も古い橋だったが、最近架け替えられ夏には夕涼みが出来るようなゆとりのあるその名のとおりの新大橋に変身した。

隅田川を渡り江東区から中央区に入る。家を出てから45分。丁度道程の中間点である。新大橋をいっきに下り浜町、水天宮へ。水天宮は昭和45年の暑い夏、長女智子がまだ妻のおなかの中にいたとき安産を祈りお参りした思い出の地である。水天宮を過ぎると急にビジネス街となる。東京証券取引所のある兜町はもう間近である。7時を過ぎラジオはニュースに変わっている。蛸殻町から茅場町の交差点へ。走る方向は西から南へ変わる。はやでのビジネスマンやOLが行き交うため気を配りながら走る。好奇心な視線を感じる時は気恥ずかしさを堪えて走り去る。

茅場町から八丁堀へ。広い歩道は走り易い。ホテル・ホリディインの前を通過する。右へ曲がると東京駅八重洲口に突き当たるが、直進し、築地に向かう。築地本願寺の前を通過したとき家を出てから1時間経過していた。晴海通りを横断し、築地市場の雑踏をかき分け走る。右側には朝日新聞本社、前方に浜離宮公園が見えてきた。海岸通りとぶつかったこの地点が新大橋通りの終点。左折して浜離宮公園の緑を左に見て海岸通りを走る。東京臨海新交通臨海線の

工事現場を経て、浜松町を過ぎ左手に東京湾を望み、芝浦棧橋、日の出棧橋を過ぎる。海岸通りは正に産業道路でトラック便がビュン・ビュン飛ばす。走っていてあまり気持ちの良いものではない。でも後3~4キロ、あと10数分で事務所に着く。海岸2丁目を右折して南浜橋を渡る。200m走って旧海岸通りに出る。竹芝橋、芝罎橋と渡り芝浦工業大学の近くに至る。時計に目をやると7時40分。田町駅から吐き出されたビジネスマン、OLの流れとぶつかる。もう速くは走れない。人の流れに逆らわずゆっくり走って八千代橋を渡るとMSビルが目の前に現れた。ゴールのMSビルに到着したとき時計は7時50分。家を出てから1時間30分。いつも1時間30分前後と変わらない。

事務所のあるMSビルの前をそのまま通過して、通りの向かいのコンビニに入る。サンドイッチ、牛乳、プリン、おにぎりなどを買ってMSビル5階へ。まだ誰もきてない。温かみの無い扉は厳として人を拒否しているかのごとくである。セコムカードを機器の中に挿入して扉を開け、中に入る。薄暗い室内に明かりを照らし、自分の席に着く。ロッカーから背広上下、靴を取り出し、洗面所へ。誰もいない洗面所ですばやく身体を拭き、着替えて席に戻る。日経新聞をマラニックバッグから取り出し読む。パブルが弾けて一向に景気が上向かず良くないと報じている。

30分位かけて日経新聞に一通り目を通し、7階に足を向ける。7階にはいつも朝早い経営企画の奥村さんがいる。奥村さんは既に40歳に近い年齢に達しているが、太りすぎが災いしてか独身で年老いたおふくろさんと二人暮らしである。そんなことは意に介さずいつも明るく仕事をこなしている。今もパソコンに向かって経営資料を作成している。「奥村さん、プリン食わない。買って来たよ。」

「ご馳走になっていいの。」

「いいよ。奥村さんに買って来たんだから。」
プリンを食べながら世間話をしているうち、9時も過ぎみんな出勤してきて辺りがざわめいてきたのを潮時に5階の自分の席に戻った。今日も仕事が私を待っている。(つづく)

新規入会個人会員

番号	氏名	勤務先・所属	
678	堤 薫	日立中部ソフトウェア(株)	情報システム部
679	吉田 裕孝	三井物産(株)	情報通信システム部
680	佐藤 尚登	NK-EXA	CIDAS事業推進本部
681	大窪 徹	労働金庫総合事務センター	システム開発部調査役
682	成川 信昭	(株)両毛システムズ	開発本部電算処理部システム運用課
683	成田 佳應	(学)電子学院 日本電子専門学院	教育部
684	大竹 英一	日本インフォメーションエンジニア(株)	金融第一システム本部
685	小坂周一郎	(株)エマーズ	技術開発本部
686	古川 幹雄	SP America社	
687	長谷川 茂		
688	名定 啓介	ダイハツ工業(株)	鹿児島ダイハツ販売(株)川内店
689	井上 修	(株)日興電気商会	
690	津下豊太郎	三菱電器(株)	西日本情報通信システムエンジニアリングセンター
691	重富 穂積	(株)マイカルシステムズ	オープンシステム部
692	上延 基行	富士通(株)	システムインテグレーション本部
693	福田 啓二	ソフトウェアビジョン(株)	福岡事業部
694	稲葉 真英	東邦ガス(株)	情報システム部開発管理グループ
695	伊藤 進	NEC 静岡ビジネス(株)	情報システム部

新規入会登録企業会員

番号	企業名	部門・窓口	
6012	(株)アリス・エフ	研究本部	西村 一郎
6013	ウッドランド(株)	開発部 取締役部長	尾崎 譲治

発行所 日本システム監査人協会

発行人 川野 佳範

事務局 〒151 東京都渋谷区笹塚1-64-8

笹塚サウスビル7F

(株)産能コンサルティング内

TEL. 03(5350)9268 FAX. 03(5350)9269

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)

三谷慶一郎 (株)NTTデータ経営研究所

TEL. 03(5467)6321 FAX. 03(5467)6322

金子 長男 (財)公営事業電子計算センター

TEL. 03(3343)4560 FAX. 03(3343)6742

橘和 尚道 システム監査コンサルタント

TEL. 0423(69)0639 FAX. 0423(69)0639

木村 陽一 日本レジホンシステムズ(株)

TEL. 03(5286)7231 FAX. 03(5286)7203

山内 美佐子 伊藤忠テクノサイエンス(株)

TEL. 043(285)1892 FAX. 043(285)1889